

月刊

みやぎのボランティア・市民活動情報誌

杜の伝言板

2014

1月号

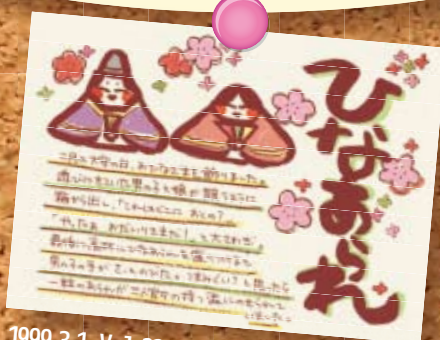
Vol.200

毎月1日発行

ゆるる



2006.7.1 vol.110



1999.3.1 Vol.22



1997.6.1 Vol.1 創刊号



2005.9.1 Vol.100



2008.10.1 Vol.137



2000.1.1 Vol.32



2002.11.1 Vol.66

創刊200号記念

特集 記念対談

井上 きみどり氏

(ノンフィクション漫画家・コラムニスト)

×

大久保 朝江 (本誌編集長)

『私たちが伝えたいこと』



大久保 朝江 × 井上 きみどり氏

## 『私たちが伝えたいこと』

平成9年6月に創刊された月刊杜の伝言板ゆるるは、この号をもって200号になりました。これを記念して、東日本大震災後、震災時のNPOの活動を紹介したマンガ冊子『わたしたちの震災物語』の筆者井上きみどりさんと当情報誌の大久保編集長の対談をお届けします。

### 三・一一 あの時は・・・

**大久保** 「私は出張先の札幌から帰るためちょうど新千歳空港にいました。職場と自宅の状況がとても心配でしたが、この(対談会場である)みやぎNPOプラザの設備には被害が出たものの、幸い利用者にケガはなく、県の指示でスタッフは応急措置をして帰ってもらいました。それから何とか県やスタッフと連絡を取って、とりあえず土・日・月と自宅待機の指示を出しました。私はといえば、飛行機で東京、夜行バスで鶴岡、山形を経由して仙台に戻ってこれたのは月曜日の夕方でした。井上さんはどちらに？」

**井上** 「私は自宅にいました。マンションのベランダが地盤沈下で約三十度ほど傾きました。ちようどその下のトイレの配管が壊れて、トイレから汚水があふれてきて大変でした。それから三週間ほどは仮設トイレ生活でした」

**大久保** 「それはそれで大変でしたね」

**井上** 「まあそれで済んだからいいよねって話になっていきますけどね(笑)」

### それからの行動は

**井上** 「震災から二週間後に、情報がかなり錯綜しているぞ、と思って、個人的にサイトを立ち上げたんです。そのとき困っている人に、規模だけでも、伝えるものがあるんじゃないかって。私は以前に女性の病気についての連載をしていたので、関東圏のお医者さんと仲が良かったんですね。彼らは「被災地に行きたいけど行けない、やりたいけどできない」という状態でした。被災地の病院は閉めているとこ

ろが多く、待っている人が大勢いたので、「メールで相談に乗ってあげてください」と、相談したい人とお医者さんをつなぐ役目をしました。それが最初の行動でした。それから支援団体が被災地へどつと入ってきたんで、「こんなに日本に支援団体があつたのか!」と驚いて。そして、こういう団体がいて、こういう活動をしている、ここに行けばこういう団体のサポートが受けられます、っていう情報をただただ流したんです。それが素晴らしいなって思って、書いたのが『わたしたちの震災物語』だったんですね」

**大久保** 「私たちも取材してブログで発信しましたが、井上さんは、どんな方法で情報を集めましたか? 新聞とかテレビとか?」

**井上** 「そうですね。まずテレビで一般のボランティアさんが入ってきてるというニュースを見ました。だけどボランティアの受け入れがバラバラで、残念ながら活動ができなくて待機状態のボランティアさんがいることを知って、これはどういうことなんだろうと。それで知人のNPO関係者から、ああいう団体あるよとかこういう団体あるよとか、色々話を聞いて、ゆるるさんが発信されていたブログなどの情報を見て、取材してっていう感じだったんですけれど……追い切れなくて(笑) なんかもう、日本中のNPOが入ってきてるような感じだったんですよ、きつと」

**大久保** 「私たちは、支援活動するにも場所が必要だろ  
うと、震災から五日目にみ  
やぎNPOプ



▲『わたしたちの震災物語』  
井上きみどり 集英社刊

ラザを日中だけ開館させました。ただ、我々も被災地へ行かなければ、と気持ちもはやるわけですよ。でも現実的にガソリンはないし、我々が行ってもかえって邪魔じゃないかとも思いました。じゃあ我々は何ができるのか、何をしなければならぬのか、検討した結果、自分たちのミッションであるNPOの支援をするのが一番、というところで一致しました。まずは県内のNPOの安否確認から始めることにしました。三月いっぱいまで三五〇くらいの団体にFAXやメール、電話で連絡をして、約二八〇団体くらいに確認が取れました。そうしたら新聞には載らないところで、地元の団体も支援活動をやっていたことがわかりました。このことをしっかり伝えないと、後に「地元のNPOは何をしていたんだ！」って言われかねない、地元のNPOの動きを発信していかないと、思いました。それで新たにブログを立ち上げて、取材した情報をどんどん上げて、そして月刊情報誌に掲載しました」

### 何をどう伝えたいのか

大久保 「あの時県外からの支援は大きくて、当然、マスコミは目に見える成果を上げていくNGOの団体に注目しますもの。一方で、私たちの情報誌は、これまでも地域で地道に継続した活動を行っている



(C)井上きみどり／集英社

団体を取り上げてきました。なので、震災があったとしてもその選択は押さえない、こだわりたいと思っただけですね」

井上 「やっぱりそういう活動も知ってほしいですよ。どんな思いでそういう地道な活動を続けているのか。新聞では伝えきれないこともやっぱりあるの、地元を見てきたNPOが発信するという情報もすごくありがたい存在ですよ」

大久保 「マスコミは力を入れて、私たちでも追いつけない部分を取材していたり、ということも多いんですが、紹介した団体がその後どう活動しているかまで追うことは少ないですね。私たちは、ニュースとして紹介されたものを見つづ、その後、どう活動してきたかを確認し、その団体の活動にとっていいタイミングで紹介します。やはりマスコミではない、市民メディアという意識が私たちにはあります。マスコミは「今何があった」という新鮮な情報を大事にしますが、私たちは継続的に活動していく中で、ゆっくり動いていく社会変化の経緯を紹介することが大事だと思っています。まさしく『ゆるる』のネーミングのごとく、ゆっくり、ゆったり、だけどちょっとずつ進む、亀のイメージなんです(笑)」

井上 「どうしても発信型になるとニーズにばかりとらわれて、「これを読みたいんですよ」ってなってしまうんですけども、書き手のその意思が出ているというのはとても面白いと思いますね」

大久保 「団体側としては、しっかり自分たちの活動を見てほしいと思うんですよ。特別なイベントや出来事があったときだけ焦点を当てられるのは本意ではなく、日頃の活動を見てもらいたいんですよ」

井上 「なかなか商業ベースの大きなメディアな団体を取り上げてきました。なので、震災があったとしてもその選択は押さえない、こだわりたいと思っただけですね」

大久保 「やっぱりそういう活動も知ってほしいですよ。どんな思いでそういう地道な活動を続けているのか。新聞では伝えきれないこともやっぱりあるの、地元を見てきたNPOが発信するという情報もすごくありがたい存在ですよ」

大久保 「マスコミは力を入れて、私たちでも追いつけない部分を取材していたり、ということも多いんですが、紹介した団体がその後どう活動しているかまで追うことは少ないですね。私たちは、ニュースとして紹介されたものを見つづ、その後、どう活動してきたかを確認し、その団体の活動にとっていいタイミングで紹介します。やはりマスコミではない、市民メディアという意識が私たちにはあります。マスコミは「今何があった」という新鮮な情報を大事にしますが、私たちは継続的に活動していく中で、ゆっくり動いていく社会変化の経緯を紹介することが大事だと思っています。まさしく『ゆるる』のネーミングのごとく、ゆっくり、ゆったり、だけどちょっとずつ進む、亀のイメージなんです(笑)」

井上 「どうしても発信型になるとニーズにばかりとらわれて、「これを読みたいんですよ」ってなってしまうんですけども、書き手のその意思が出ているというのはとても面白いと思いますね」

大久保 「団体側としては、しっかり自分たちの活動を見てほしいと思うんですよ。特別なイベントや出来事があったときだけ焦点を当てられるのは本意ではなく、日頃の活動を見てもらいたいんですよ」

井上 「なかなか商業ベースの大きなメディアな団体を取り上げてきました。なので、震災があったとしてもその選択は押さえない、こだわりたいと思っただけですね」

大久保 「やっぱりそういう活動も知ってほしいですよ。どんな思いでそういう地道な活動を続けているのか。新聞では伝えきれないこともやっぱりあるの、地元を見てきたNPOが発信するという情報もすごくありがたい存在ですよ」

大久保 「マスコミは力を入れて、私たちでも追いつけない部分を取材していたり、ということも多いんですが、紹介した団体がその後どう活動しているかまで追うことは少ないですね。私たちは、ニュースとして紹介されたものを見つづ、その後、どう活動してきたかを確認し、その団体の活動にとっていいタイミングで紹介します。やはりマスコミではない、市民メディアという意識が私たちにはあります。マスコミは「今何があった」という新鮮な情報を大事にしますが、私たちは継続的に活動していく中で、ゆっくり動いていく社会変化の経緯を紹介することが大事だと思っています。まさしく『ゆるる』のネーミングのごとく、ゆっくり、ゆったり、だけどちょっとずつ進む、亀のイメージなんです(笑)」

井上 「どうしても発信型になるとニーズにばかりとらわれて、「これを読みたいんですよ」ってなってしまうんですけども、書き手のその意思が出ているというのはとても面白いと思いますね」

大久保 「団体側としては、しっかり自分たちの活動を見てほしいと思うんですよ。特別なイベントや出来事があったときだけ焦点を当てられるのは本意ではなく、日頃の活動を見てもらいたいんですよ」

井上 「なかなか商業ベースの大きなメディアな団体を取り上げてきました。なので、震災があったとしてもその選択は押さえない、こだわりたいと思っただけですね」

### 伝えるものの変化？

大久保 「『わたしたちの震災物語』を書くにあたって、震災直後に取材されたとなると、当時は、NPOにとっても、とにかくやらなきゃいけないことが目の前にはっきりしていたじゃないですか」

井上 「ええ、みんなやりがいを持って活動していました。それぞれ同じ方向を向いていた時期でしたので、やりやすいしやりがいがある、というのはすごくわかりましたね」

大久保 「たしかに目の前の困っている人に対してすることがはっきりとしていたからこそ、あんなパワーを発揮してくれたんだろなあと」

井上 「取材を通して仲良くなって、その後も色々描かせてもらっている団体があるんですね。それでその話をどんどん書きたいんですけど」





と知っている人々は、「だからどうしてほしいの?」って言われちゃうわけですよ」

**井上**「話を具体的なところに落としこんでいかないと伝えようにも伝わらないことがありますね。こういうことがありますよ、こういう団体がありますよ、だけではなくて、そこから先、こういうことをしたいから、読んでいる人にはこういうことをしてほしいという」

**大久保**「ゆるるの場合は、読者が次の行動を選ぶきっかけにするツールとして出しているのだから、それが感じられないような発信の仕方だったら意味がないですよ」

### 全国に伝えるべきこと

**井上**「去年の秋頃、震災関連のチャリティイベントに参加させてもらった時に、女子中学生から質問されたんです。「プレハブはまだあるんですか?」って。仮設住宅って言葉がわからなかったんでしょね。プレハブって言われたのもショックだったし、まだあるんですか?って言われたのもショックだったし……。ここから伝えていかなきゃいけないのかって思ってた。みんな知ってるようで知らないし、私たちは何を知らないのかわからないので、来年あたりからそういうリサーチをしようかなって思ってるんです」

**大久保**「井上さんのマンガが全国で発売されているということはそういう意味ではすごく大きいことだと思います」

**井上**「ただ商業誌ってすごく難しくて、そういう地道な取り組みをマンガとして書かせてもらえるところが少ないんですよ。いろんな出版社に声をかけているんですけども、なかなか

「よしやるっ」っていうところがなくて、そこが今困りどころなんです」

**大久保**「そう聞くと、震災の復興支援に対してだんだん熱が冷めているのかなって感じますね」

**井上**「非常に感じますね。「書いてもいいけれども、ちょっと笑えるものにしてもらえますか?」って求められるテーマ自体も軽めのもので変わってきていて、重いものはもうみたくないからっていうのをすごく感じます。あとたとえば宮城の沿岸部の漁業の話を書こうと思っても、放射能のことが出るとNGなんです。すべてが、これを書きたいから、っていうふうにはいきません。書き手の自由っていうのがなくなっていると感じますね」

### マンガと活字

**大久保**「井上さんのマンガを読んでみて、場面場面のことが視覚的で、何を伝えたいのかわかりやすいですよ。私たちって文章しかないので、なかなか難しいんですよ。マンガってデフォルメして表現できるじゃないですか、表情とか。だからよく伝わるんですよ。たとえば写真で表情を捉えていてもなかなか前後のやり取りまでは難しい。マンガでは前後の文脈も含めた表情に仕上げるってことができますからね」

**井上**「マンガでは、いろんなものをミックスして、一瞬に見て頂けるので、いいかなと思います。あと人の思いって文章で書かれると、すごく難しいんですよ」

**大久保**「ホントは焦っているのに、落ち着いた感じで書かれちゃうとか、処理する段階で変わっていくものね」

も、どういうふうに書けばいいか、今ものすごく悩んでいます。団体はこういうふうに見てほしいっていうのが必ずあると思うんです、書き手に対しては。ゆるるさんとして記事にされる場合、どういうふうに伝えたいと思っていらっしゃるんですか?」

**大久保**「それぞれの団体が「応援してください」と言っていることはわかるんですけど、具体的にはつきり示されないと読者を動かすだけのものにならないって思うんですよ。たとえば被災した地域のある団体がこう言います。「この地域には日常的に運営される遊び場が絶対必要なのでそれを作りたいんだ。それで土地がないので貸してくれ」と。見る側が何をすればいいのかわかるような出し方だと、取材先の団体にとってすごくいいわけなんです。ただ出し方があいまいな団体が多い。「今こういう状況です」っていうのを出しても、応援したい



井上「これだけ文字情報が世の中に出ているのに、県外の方、主に関東から西ですよ、震災当時も今も被災地がどうなっているのかわからないってずっと言っているんです。これってなんなんだろうって考えると、やっぱり伝わりきれてない部分があるのかなあ、と。それは文字や映像の限界があるんだろうなって」

大久保「たった十秒の映像でも、その前後の文脈を伝えているかどうかで、全然意味が変わってくる場合があるんですよ」

井上「そういう怖さは感じますね。その点、マンガは都合のいいツールなので(笑)」

大久保「今回つくづく思ったのは、デフォルメするとわかりやすいよねって。要するに、「何が」っていうところの大事さとか、こだわりとかっていうのが、ある意味リアルじゃない写真のような書き方になるわけだから、そこに伝えたいことを込められる」

井上「見せたくないものは見せないようにっていう都合の良さも発揮できるの、まとも

に書けば辛い絵になることも、何とかできるってこともいいのかな」

大久保「深刻なことを書いてるけども、深刻に見せない、とかね」

井上「そうですね」

大久保「ちょっと羨ましいなと思います。文章だけでは伝えきれないよな、っていうのがあつて」

### 市民活動をマンガで

大久保「震災とは別で、市民活動のことを伝える主旨でマンガ化したものはないのかしら。市民活動をわかって」

井上「じつは震災前にある出版社でそういう話が出たんですよ、小中高向けに出そうということ。ただ、会議は通ったんですけど、そこがらが頓挫してしまつて」

大久保「出してほしいですねえ。出す時はぜひ協力しますよ(笑) それでぜひ、いろんな分野の、それとできればローカルなNPOを紹介してもらいたいですね」

井上「みなさん、素晴らしい活動をされていて、各団体も各個人も「私たちすごいんだよ」ってことは言えませんが、そこを代わりに言っている面はありますよね」

大久保「NPOで活動している方々の年齢を考



(C)井上きみどり/集英社

えても、自分たちの活動を都合いいように発信できるような年代ではないです」

井上「そこをうまく引き出して、書くっていうのは大変ですよ。なかなか自分の口からは言えないことでも、こうやって活字にしてみらえると、「これが言いたかったんだよ」っていうのが見えて、いいかもしれません」

大久保「第三者が取材して書くことの良さだと思ひます」

井上「取材の良さって、話をしている側も整理ができるってところだと思います。「自分たち、こういう方向がいいんじゃない」って話してる間に気づかれたりすることも多いんじゃないかなと思います」

大久保「では、ぜひ市民活動版のマンガを(笑)」

井上「作りたいですね、ひとつそれを目標にして頑張ります(笑) でもたしかに、NPOに対して何かをしたいけど尻込みをしている人にとつては助けにもなると思います。「知る」ということは」

大久保「知ってもらふ、ということとは第一歩ですね。そういう意味で私たち情報発信してますが、活字とマンガとは伝わりやすさに雲泥の差がありますから(笑) それでは、仙台にいらっしゃるといいうのも何かの縁でしょうから、今後ともよろしくお願いします」

井上「こちらこそよろしく申し上げます」

井上・大久保「ありがとうございました」



# 杜の伝言板ゆるる200号の発刊によせて

このたび、月刊杜の伝言板ゆるるは今月号で創刊200号を迎えました！

これもひとえに読者やNPOの皆さまの応援があったからこそと感謝しております。

この節目に、これまでお世話になって来た皆さまから暖かいお祝いのメッセージを頂きました。

これを励みに、これからもゆるるらしく情報発信していきますので宜しくお願い申し上げます。

ゆるるゆるると  
二〇〇号

前・宮城県知事  
浅野 史郎



「杜の伝言板ゆるる」が十六年間かけて二〇〇号を達成したこと、まずは、おめでとうございます。発刊当時に少しでも関わったものとして、とても喜んでいます。十六年、二〇〇号も続くとは驚きです。快挙といっているでしょう。

杜の伝言板のネーミングが秀逸です。伝言板なんて、実際の生活の場面では、ほとんど見られません。こういう形の伝言板だと読んでみたいという気になります。「ゆるる」というのもピッタリです。ゆっくりと、ゆったりと、たゆまず進んでいくというイメージが湧いてきます。そつやって十六年間たゆまず歩いて来たんですね。

毎回の伝言板に情報がたっぷり載っているの、読みごたえがあります。役所からのお知らせとは違って、肉声が聞こえてくるようなメッセージです。親しみやすさ、これも杜の伝言板の魅力です。

多くの市民に愛されてきた伝言板。これからも、ゆるるゆるると続いていくって欲しい。県外にある身ですが、杜の都のほうに向かって、そう祈念しています。

「応援媒体」に感謝

かほく「108」クラブ運営委員長  
(河北新報社 専務取締役)

穴戸 實



月刊「杜の伝言板ゆるる」との出会いは二〇〇六年。河北新報グループの従業員とグループ企業十二社で構成する「かほく「108」クラブ」の設立一周年を期に、法人会員として入会させていただいたのがきっかけだった。その「ゆるる」が二〇一四年一月で二〇〇号を迎えるという。第一号から積み重ねた年月は「ゆるる」の歴史であると同時に、「みやぎのボランティア・市民活動情報誌」のサブタイトル通り、宮城、仙台のNPO、ボランティア活動の貴重な記録集でもある。一会員としても嬉しい限りだ。

愛読者としてうれしいのは、情報量の多さ。工夫を凝らした特集、NPOの活動紹介、助成金情報、各種インフォメーション…。クラブ設立当初は企画を立てても実行段階で戸惑うことばかりだったが、参考になる取り組み、アイデアの数々が紹介されており、勇気づけられることが多かった。その意味では「ゆるる」は当クラブのバイブル的存在だった。特にありがたかったのは助成金情報。当クラブの事業の一つに子

供の心と体を育む活動を支援する「108ファンド」助成があるが、対象となる団体にどういう手段でお知らせするかが悩みだった。その点、「ゆるる」に掲載していただくと、自治体、NPO、ボランティア団体、さらに大学などにも一斉に情報を届けることが可能。お陰で多くの団体から応募していただくことができた。感謝、感謝である。

発行元のNPO法人「杜の伝言板ゆるる」は、NPOや地域の方々に応援するNPO。その応援媒体としての月刊「ゆるる」が、今後さらに三〇〇、四〇〇と号を重ね、NPO同士の交流や情報交換の場がますます広がっていくことを期待している。



## ゆるるに鍛えられて今がある

NPO法人ゆにふりみやぎ  
理事長 伊藤 清市



この度は二〇〇号おめでとうござ  
います！創刊準備から携わらせて頂  
いたものとして、とても嬉しく思  
います。

私とゆるるとの出会い、今から  
二十年前の東北福祉大学在学中ま  
でさかのぼります。

当時、仙台市内のバリアフリー  
マップを作成すべく、大学内外の  
方から活動のノウハウを伺っていた  
時、ある方から編集会議にお誘い  
いただいたのがきっかけでした。当時、  
さんだんの杜の一室で開かれていた  
編集会議に参加して、「ここでは大  
学で学べないことが学べる！」と直  
感し、すぐさま編集委員として参  
加させていただきました。

編集委員時代の一歩の思い出は、  
「NPO活動をしている妻をどう思  
うか覆面座談会」です。タイトルだ  
けで想像つくかとは思いますが、女  
性編集委員が多いゆるるの活動を  
旦那様方はどう思っているのしや  
るか、という座談会を行いました。旦那  
様方の赤裸々？なトークに板挟み  
になり、当時独身だった私も（今も  
ですが…）男女共同参画社会の真実

を垣間見たような気がしたもので  
す。（笑）

ほかに、NPO米国研修の帰  
りの機内で原稿を添削いただいたり、何  
十回も書き直して手に豆がでたり  
と、ゆるるが現在の活動の原点だ  
と言っても過言ではないくらい編集  
委員の諸先輩方には鍛えられました  
（笑）

しかし、このようなトレーニング  
の場があったからこそ、今もこうし  
てNPOの活動を続けていられるの  
かと思うと、諸先輩方には感謝して  
もし過ぎることはないであります。  
あつ、でもあまり感謝ばかりして  
いると、「また原稿書いてねー」とど  
こからともなく囁かれそうなので、  
この辺でやめておきましょう。（笑）  
何はともあれ、ゆるるが果たす役  
割はマスではないけれども、地に足  
を着けた実直な紙面づくりにあり、  
このご時世をしますます重責にな  
ると思っております。

今後また大久保代表をはじめ、ス  
タッフ皆様のご活躍を祈念いたしま  
す。この度は本当におめでとうござ  
いました！

## ゆるる二〇〇号

NPO法人せんだい杜の子とも劇場  
代表理事 齋藤 純子



そうですね！二〇〇号記念です  
ね!!おめでとうございます☆

ゆるるさんのお付き合いは、彼  
は十数年前でしようか、編集長と  
なった大久保さんに同行し取材へ出  
向いたことから始まりました。  
「あのさあ、くに行くんだけど」の誘  
い文句に、トコトコ乗ってしまった  
私は、それ以来、気が付くと取材に  
一人出向いたり・・・随分と貢献？  
しました。

原稿に赤ペンがたくさん入り、「自  
分の思いより客観的に」読み手をイ  
メージすの！」「表現はわかりやす  
く」など等、大久保女史には、心懇  
切丁寧な指導♡を受け、「なにく  
そー」と思いながらも自分と向き合  
うことが出来、お陰様で私も随分と  
成長できましたぞ。サンキューです、  
キラリン☆

初めて取材した「仙台風倶楽部」で  
は、宮城県美術館界隈で自然の中で  
子どもたちと「あそび」を作りながら  
探検する面白い大人たちがいること  
に、ものすごく心がときめきました。  
私にとっては、取材イコール「新し  
い出会い」につながり視点も広がり、

我がせん杜にとってもたくさんのヒ  
ントになり、相乗効果抜群でした！

さて、せん杜にとってゆるるさん  
は、イベント情報掲載のみならず、  
自分たちの思いやイベントに至るま  
でのプロセスを丁寧に紹介してくれ  
る頼もしい存在です。当初は会員同  
士の居場所と捉えられがちだったせ  
ん杜でしたが、仙台界隈の皆さんよ  
り「せん杜のことが載っていたね」と  
声を掛けられることが増えました。  
共感してボランティアしてくれる市  
民と学生の輪がひろがりました。他  
のNPOや団体とのネットワークも  
広がりました。情報を発信してくれ  
るNPOの存在は、私たちをも牽引  
してくれたわけです。

NPO活動を大切にしてしてくれて  
いるなあ、思いを共有している人た  
ちをつないでいるなあ、創刊から  
二〇〇号まで、ゆるるの一貫した思  
いを感じてきました。

それにしても、大久保女史もズイ  
ブーン丸くなったこと！ふっふっふ  
☆

## 杜の伝言板ゆるる200号の

### 発刊によせて

宮城県社会福祉協議会

北川 進



二〇〇号発刊、おめでとうございます。市民活動団体としてのここまでの歩み、大久保代表をはじめ発刊に携わるスタッフの皆さんのご尽力にあたためて敬意を表したいと思います。

私が、みやぎボランティア総合センターを担当していた平成十四年、当時県社協としてファックスで単独発行していたボランティア情報紙「こらぼ」が、発信力の乏しさの課題を抱えていたところに、「ゆるる」のページを借り上げる案が持ち上がりました。県の補助を受けての運営であったみやぎボランティア総合センターとしては様々な障壁もありましたが、私たちの発信力の課題と当時七十を超える市町村があった中、市町村への浸透力の課題をカバーする「ゆるる」の中の「こらぼ」を発行することが実現しました。ボランティアの活性化を図るための情報発信を行う共通のミッション達成のための、まさに「連携・協働」の姿であったと思います。

「こらぼ」の原稿作成業務は今につながる基礎力を身に付けてさせていただくことになりました。様々な活動現場に取材に行くことで見えたボランティア・市民活動の実態はもろろのこと、大久保さんに原稿を何度も「ダメだし」いただいたことは、文字で伝える表現力を養う本場に貴重なアドバイスでした。きつと大久保さんは大変であったと思いますが…。その後、「ゆるる」と「こらぼ」の連携・協働は震災が起こった二十二年度まで続きました。きつと私のあとに担当した若い職員らも「こらぼ」の原稿作成を通して、様々なスキルアップをしてくれたことと思います。私たち県社協職員としては、これも目には見えない大きな成果であったと私は言いたいです。

初めて発刊した際に大変なご苦労があったことはもちろんですが、続けていくことのエネルギーも大変なものであると思います。今後、三〇〇号、五〇〇号と続くことを願います。これからも微力ながらお手伝いをさせていただきたいと思っています。

## 杜の伝言板ゆるる200号の

### 発刊によせて

もつと楽しく 仙台発 大人の情報誌 りらく

編集長 田中 志津



みやぎのボランティア・市民活動情報誌「月刊杜の伝言板ゆるる」創刊二〇〇号おめでとうございます。この情報誌を通じて、市民がNPO活動に参加するキッカケとしてほしい、企業が応援する気持ちになってほしいと発信し続け、一〇〇〇部から今や一〇、〇〇〇部。大久保代表初め、スタッフの皆様の「市民協働の力」を結集した情報だと毎号楽しみにしております。

よりよい社会に。“できること”から始めよう！”と題し、奥山市長・大久保代表の鼎談と幾つかのNPOを取材掲載した矢先の震災でした。この取材がキッカケで、震災後の世界各国、全国のボランティアの方々の活動を目の当たりにし、より深く私自身も体験することとなりました。特に震災後、紙媒体だけではなく、SNSの力を存分に発揮されたのは、NPOだったのではないでしようか。

思えば、私共の発行しております地域情報誌「りらく」も「伝言板ゆるる」さんの発刊一年後に創刊し、地域の旨いもん、旅等そこに関わる「人間情報」を取材し続け、創刊から丸十六年になりました。創刊当初は数千部の発行から、震災後の現在では四五、〇〇〇部と「伝言板ゆるる」さんと同じように、分野は違えど互いに必要とされる情報を想いを持って発信続けてきた結果だと思っています。

これからも、地域に愛される「伝言板ゆるる」として多様な分野で活動するボランティア・市民協働の情報発信支援を通して、活動しやすい環境づくりと、参加体験型の活動を発信し続けて頂きたいと思っています。

そんな中、世はタイガーマスクや伊達直人等、「今年は寄付元年になるのでは」と弊誌でもNPO特集(保存版)と称して二〇一一年三月号(二月二十八日発行)で「一人ひとりの力で





## 杜の伝言板ゆるる二〇〇号の発刊によせて

東北労働金庫 宮城県本部

市民活動団体の黎明期から現在に至るまで、「杜の伝言板ゆるる」の果たしてきた社会的役割は計り知れず、創刊二〇〇号と云う記念すべき節目を迎えたことは喜ばしい限りです。

この機会に、これまでの東北労働金庫との協働事業についても振り返ってみたいと思います。

東北労働金庫(旧宮城労働金庫)では二〇〇年以降から、NPOとの協働事業が事業計画に盛り込まれるようになりました。ゆるるとは、まず出来る事から関係を構築していくスタンスで、情報誌を営業店で配布協力することから実施し、その後は情報誌への広告掲載の協力と云う形で推移してきました。

また、夏休みの高校生向けプログラム「高校生のNPOで夏ボラ体験」では、高校生へのお金の学校とジョイントで実施したり、シニア層を中心に募集対象とした東北ろうきんの「パートナーシップ制度」においては、宮城県内の協働委託法人として協働事業を展開してまいりました。

東日本大震災の発生後の被災地では、生命の危機から脱した被災者達

が次に求めたものは、地域のリアルな情報だったと喧伝されました。

ゆるるの活躍は中間支援組織として、現場である被災地に直接何度も出向き、情報収集に明け暮れ、それら情報を繋げて発信すると云う正に獅子奮迅の活動でした。

被災地のニーズやウオントを汲み上げるだけではなく、沿岸部から離れた一般市民に対しても、現場の情報を発信し、双方向に「つなげる」と云う大事な役割も担っていたことは云うまでもありません。

情報発信の基本は、「誰に」「何を」「どう伝えるか」を考えることであり、その根幹にあるのが「何のために」という問いがあります。それらのプロセスを踏まえてこそ、「共感」が生まれ、「協働」へと導かれるのでしょう。その意味では「情報発信の目的や伝える対象を明確にしながら、どのように伝えるか」を中間支援組織として、絶えず現場と向き合っているゆるるの存在意義は重要度を挙げていると云えるのですよ。

これからも益々活躍されることをご祈念申し上げます。以上

## 杜の伝言板ゆるる二〇〇号の発刊によせて

NPO法人ボラみより情報局  
代表 織田 元樹

私を知る限り、『杜の伝言板ゆるる』のようなボランティア・市民活動の情報誌をフリーペーパーとして発行しているNPO法人は、全国で三つしかありません。宮城の『ゆるる』、北海道の『ボラナビ』、名古屋の『ボラみみ』です。必要な媒体と言われながらも、全国的に見てもまれな存在であるのは、継続して発行し続ける難しさがあります。通常フリーペーパーは、掲載する広告主からの収入によって発行が可能となります。しかし、掲載するボランティアや市民活動団体などからの収入は見込めません。

維持の難しい媒体でありながら、毎月発行しても十七年の歳月がたたないと二〇〇号には至りません。『杜の伝言板ゆるる』はNPO法人もない、インターネットも普及していない時代に、いち早く市民活動の情報を市民に届ける活動に取り組まれたこともすごいことです。もつとすごいことは、震災を経験しても発行し続け、記念すべき二〇〇号の発行を迎えられたことです。

情報を入手する手段がインター

ネットの時代に、「なぜ今紙媒体なのですか？」という質問を受けることがあります。私は「なぜ新聞はいまだにあるのでしょうか？」と答えています。ラジオやテレビが全盛の時代にも、新聞はすたれませんでした。現在は、新聞の購読者は減少しているといわれますが、新聞はいまだに重要な媒体には変わりありません。ラジオ、テレビ、インターネットと情報を伝える媒体は増えましたが、紙媒体は今も重要な存在といえます。

ラジオ、テレビ、インターネットのような伝達速度の速い媒体の情報は、目の前を次々と通り過ぎていきます。紙媒体だからこそじっくり読まれる情報があります。紙媒体だからこそ、記憶に残る情報があります。私たちボランティア活動や市民活動は、地域にゆつくり、じっくりと根を張り地域を育んでいく活動です。『杜の伝言板ゆるる』が、これからも地域に根を張り、市民に情報を届け、地域とともに発展し続けてほしいと思います。

あなたの心に寄りそう

# ～NPO法人仙台傾聴の会～

みやぎNPOプラザ

このページは、みやぎNPOプラザからのお知らせです。

みやぎNPOプラザの事務ブースに、昨年十二月から新しい団体「NPO法人仙台傾聴の会」が入居しました。

仙台傾聴の会は、二〇〇八年四月に自殺予防や高齢者の心のケア対策のため、傾聴活動を行うことを目的に任意団体として設立され、昨年十月、NPO法人に認証されました。わずか七名でスタートした発足時から、現在では二〇〇名を超える会員がいます。

「あなたの心に寄りそう」を合言葉に、高齢者福祉施設や独居宅、対面相談、電話相談、震災後は仮設住宅を訪問し傾聴活動を行っています。

## 心を癒し、人と人との絆をつくる

「聞く」と「聴く」——二つの漢字が表す意味は違いますと仙台傾聴の会代表森山英子さんは言います。

「聞くは、聞き流す。聴くは、感謝・関心・謙虚などの十四の心で聴くこと。傾聴の基本は、傾聴モードで聴く・共感的理解で聴く・受容的態度で聴くことです。そのことにより、相手を受け入れ、つらさに寄り添うことが出来るのです」

震災発生後、宮城県医師会から依頼を受け、仙台市、名取市、岩沼市に設けられた避難所に向き、自ら被災しながらも述べ二〇〇人のスタッフが約五五〇人の被災体験を聴

◀名取の仮設住宅における男性食卓の様子



きました。現在も仮設住宅居住者、みなし仮設者の話を聴き、被災者の心のケアにあたっています。

ある仮設住宅集会所でクリスマス会を行ったとき、最後に参加者から「傾聴の会のおかげでここまで来ることが出来ました、ありがとうございます」と涙ながらに語られました。私たちは、このような言葉にこそ支えられて活動の励みにしているところです。その後、仮設個人宅から依頼を受けるようになり、信頼関係が作られた瞬間でもあったと受け止めました。

最近では、自宅再建できた方と先の見通しの立たない方との格差もみられます、これからこそ寄り添う必要があると思っています。要望があるかぎり仮設住宅居住者、みなし仮設者向けの傾聴活動を続けていきたいと思っています。

## 活動の充実を目指して

事務ブースに新たな拠点を置くことについて「広いスペースが確保でき、電話相談などの対応もしやすくなります」と森山さん。

「傾聴ボランティア」への関心が年々高まっており、傾聴ボランティア養成講座への申込みも多く、また、市町村からの研修の要請も増えてきました。昨年十一月に行われた、みやぎNPOプラザのイベント「みやぎNPOフォーラム2013」でも講座を開催し、大変好評でした。「活動は今、確かな広がりを見せており、今後更に必要とされ多様化していくと思います。その為に、傾聴ボランティア養成講座や会員の研修などの充実が必須です。プラザを活用し更なる活動の充実を目指していきたい」と抱負を語りました。



▶二〇一三年九月に行われた傾聴ボランティア養成講座

## プラザのNPO講座・相談

お申込みはコチラから

知って安心！NPOのための法人税講座

1/24(金) 13:30～16:30

NPO夜学～もうひとつの生き方と出会う～  
第4回「一緒に活動する仲間を見つける」

1/29(水) 19:00～21:00

もうお済みですか？NPO法人のための定款変更講座

1/31(金) 13:30～15:30

雇用なんでも相談

2/14(金) 13:00～17:00

## みやぎNPOプラザ

〒983-0851 仙台市宮城野区榴ヶ岡5  
(指定管理者：特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる)

☎ 022-256-0505

☎ 022-256-0533

✉ npo@miyagi-npo.gr.jp

●みやぎのNPO・市民活動を支援するWebサイトです。

## みやぎNPO情報ネット

<http://www.miyagi-npo.gr.jp/>





# 助 成 金 情 報

※詳細については、それぞれのホームページ等の要項をご確認ください。

## 2014年度 環境活動に対する公募助成

- 助成内容：環境市民活動に必要な経費を支援
  - ・地球温暖化対策助成
  - ・清掃助成
  - ・緑化植花助成
  - ・活動助成
 助成期間内に自立運営できる財政基盤を作り上げ、事業を構築・確立するための経費を支援
  - ・自立事業助成
 内容により異なります。詳細はHPの要項をご確認ください
- 対象期間：2014年度中に実施される事業
- 募集締切：1月20日(月) 消印有効
- 連絡先：一般財団法人セブン-イレブン記念財団
 

〒102-8455 東京都千代田区二番町8番地8  
TEL：03-6238-3872 FAX：03-3261-2513  
E-mail：oubo.14b@7midori.org  
URL：http://www.7midori.org

## こ〜ぶほっとわ〜く助成金 福祉活動・研究助成(下期)

- 助成対象：高齢者・障がい者・児童の生活支援活動、支援施設づくり(改装、備品の購入を含む)、住みよい社会を作るための調査・研究活動、交流集会・研究会・シンポジウムの開催等の非営利活動  
その他、上記の目的を達成するために必要な事業
- 対象団体：宮城県内で活動する非営利の団体・個人  
(法人格の有無は不問)
- 助成金額：原則として上限50万円(講演会・フォーラム・演奏会などの開催に対しては、上限10万円をめどに助成)
- 募集締切：1月20日(月) 消印有効
- 連絡先：みやぎ生協生活文化部福祉・文化活動事務局  
こ〜ぶほっとわ〜く助成金係  
TEL：022-218-5331 FAX：022-218-3663  
E-mail：sn.mtasukeai\_jimu@todock.jp

## 患者会活動資金助成

- 助成対象：1)会の自立や役員・リーダー・相談員の養成が期待できる活動  
2)会が抱える問題の解決に取り組み、会の自立や育成につながる活動
- 対象団体：日本国内に活動拠点を置く、患者・患者家族の会、患者会の連合組織等
- 助成金額：1案件上限50万円(総額850万円)
- 対象期間：下記のいずれかの期間内
  - 1)1年間 2014年4月1日～2015年3月末まで
  - 2)2年間 2014年4月1日～2016年3月末まで
- 募集締切：1月31日(金) 消印有効
- 連絡先：アステラス製薬株式会社 総務部  
スターライトパートナー担当  
〒103-8411 東京都中央区日本橋本町2-5-1  
TEL：03-3244-5110 FAX：03-5201-6611  
E-mail：star-light@jp.astellas.com

## 東日本大震災現地NPO応援基金(一般助成・第2期)第7回

- 助成対象：テーマ「被災者の生活再建を支援する現地NPOの組織基盤強化」  
「組織基盤強化」とは、「今後の活動を充実していくために組織の力をつけていくこと」を言い、NPOの

人的基盤、財政基盤、情報基盤など運営基盤の整備が主な課題となります。また、被災者の生活再建の支援ニーズ調査などアドボカシーの強化につながるプロジェクトの実施も含まれます

- 対象団体：(1)岩手県、宮城県、福島県において直接被災者の生活再建を支援する「現地NPO」  
(2)上記(1)の活動を行う団体の「現地ネットワーク組織」または「現地中間支援組織」
- 助成金額：1件あたり300万円以内(助成総額は新規助成・継続助成を合わせて1,300万円)
- 対象期間：2014年4月1日から1年間以内
- 募集締切：1月20日(月)～1月31日(金) 必着
- 連絡先：NPO法人市民社会創造ファンド  
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-3  
日本橋MIビル1F  
TEL：03-5623-5055  
E-mail：ksakamoto@civillfund.org

## 平成26年度 地域の伝統文化保存維持費用助成

- 助成対象：・地域の民俗芸能への助成  
・地域の民俗技術への助成
- 対象団体：歴史的・文化的に価値ある地域の民俗芸能または民俗技術の継承、特に後継者育成のための諸活動に努力をしている個人または団体  
※都道府県教育委員会または知事部局の文化関係所管課の推薦が必要です
- 助成金額：地域の民俗芸能 1件につき上限70万円  
地域の民俗技術 1件につき上限40万円
- 対象期間：単年度助成を原則とします。ただし、必要に応じて最長3年間の継続助成を認めることがあります
- 募集締切：1月31日(金) 消印有効
- 連絡先：公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-9-1  
(明治安田生命新宿ビル)  
TEL：03-3349-6194 FAX：03-3345-6388

## 平成25年度 子ども・若者のみらい応援事業

- 助成対象：以下のすべてを充たす事業
  - ・青年(おおむね30歳程度未満)が事業実施の主体となる事業
  - ・青少年(おおむね小学生から高校生)の自主性や社会性を育成し、社会参画に貢献する事業(新規事業だけではなく、既存の事業を発展させたものでも可)
- 対象団体：青年が活動に参加する営利を目的としない団体(青少年のための宮城県民会議の会員資格、法人格は不問)  
既に活動を行っている団体のほか、事業のために新たに結成された団体も対象となります
- 助成金額：1事業あたりの補助上限額20万円  
(補助率：対象経費の1/2以内)
- 対象期間：平成25年度中に完了する事業
- 募集締切：平成25年度中随時募集(早めのご相談をお願いいたします)
- 連絡先：青少年のための宮城県民会議事務局(とらいゆ〜すMIYAGI)  
〒980-8570 仙台市青葉区本町3-8-1  
宮城県環境生活部 共同参画社会推進課内  
TEL：022-211-2577 FAX：022-211-2392  
E-mail：seisyo9@pref.miyagi.jp

- 内 容：事例発表(被災3県のお父さん)、東日本大震災父子家庭+父親支援プロジェクトの中間報告、ディスカッション等
- 対 象：宮城県子育て支援者、宮城県市町村の子育て支援担当職員、復興支援NPO・NGO、父親支援に関心のある方、父親、母親
- 定 員：100名
- 参 加 費：無料
- 申込方法：メールまたはFAXにて、件名に「宮城のお父さんフォーラム」参加申込と記載し、名前、ご所属、連絡先を明記の上、下記連絡先まで申込
- 主 催：一般社団法人マザー・ウィング
- 連 絡 先：TEL：090-6784-5048 FAX：022-375-0671  
E-mail：event@nobisuku-izumi.jp

## 2/2 パレスチナ現地訪問報告会 「暫定自治合意から20年ーパレスチナは今」

12月～1月にかけて、パレスチナ現地訪問した様子を報告します。

- 日 時：2月2日(日)13:30～16:00
- 場 所：仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール(仙台市青葉区一番町4-1-3)
- 報 告 者：石川雅之さん(パレスチナと仙台を結ぶ会代表)
- 参 加 費：300円
- 主 催：パレスチナと仙台を結ぶ会
- 連 絡 先：TEL：022-251-3106(石川行政書士事務所)  
E-mail：isigyuu@ybb.ne.jp

## 2/5 NPOのステップアップに今必要な5+1講座

組織の課題をあぶり出し、その解決につながるスキルアップ講座を開催します。気になる回だけの参加も受付しています！

- 日 時：2月5日(水)、2月6日(木)10:00～16:00  
2月7日(金)9:30～16:30
- 場 所：気仙沼中央公民館 3階 会議室1(気仙沼市魚市場前1-1)
- 内 容：組織課題の整理、情報発信、事務局運営、資金調達、マーケティング、組織の人材育成とは

## 縦 覧 中

| NPO法人の設立を新しく申請した団体 |     |                                                                                                |       |
|--------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 団体名                | 所在地 | 活動内容                                                                                           | 受理日   |
| 宮城県 石巻中里スポーツクラブ    | 石巻市 | 子どもにスポーツの楽しさを教える活動及び地域住民の健康を推進する活動。                                                            | 11/26 |
| 宮城県 どんぐり未来塾        | 岩沼市 | 国民に対する医薬品の適正使用のための情報発信及び研修会を通じ、健康維持に寄与する活動。                                                    | 11/27 |
| 宮城県 雄勝まちづくり協会      | 石巻市 | 石巻市雄勝のまちづくりに関する活動。                                                                             | 12/6  |
| 仙台市 みちのく森の楽校       | 仙台市 | 環境保全事業、体験交流事業、普及啓発事業等                                                                          | 11/12 |
| 仙台市 留学支援協会         | 仙台市 | 留学・ワーキングホリデー手続き支援事業、低所得者層への奨学金制度事業、英会話講師の派遣事業等                                                 | 11/18 |
| 仙台市 消費者市民ネットとうほく   | 仙台市 | 各種消費者被害の実態調査・研究事業、各種消費者被害の拡大防止のために不当な約款・不当な勧誘行為・不当な表示等に対する是正を求める事業、各種消費者被害防止・救済に関する情報提供及び啓発事業等 | 11/18 |
| 仙台市 ホルモンと癌研究会      | 仙台市 | 学術集会啓発事業、ホルモン依存性癌患者の診断・治療に関する知識の広報・啓発事業、ホルモン依存性癌の病態・原因に関する知識の広報・啓発事業等                          | 11/29 |

宮城県のNPO法人数 **752**団体  
宮城県等所轄：342団体 ※2013年12月10日現在  
仙台市所轄：410団体

- ※詳細については、HPをご覧ください。
- 対 象：NPO事務局・スタッフ対象 5講座  
代表・理事対象 1講座(人材育成)
- 参 加 費：無料
- 申込方法：メールにてお名前、ご所属、連絡先、参加講座を明記の上、下記連絡先まで申込  
または下記HP内の申込フォームより、申込
- 主 催：宮城県
- 企画・実施：NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター
- 連 絡 先：TEL：022-264-1281(担当：遠藤)  
FAX：022-264-1209  
E-mail：minmin@minmin.org  
URL：http://www.minmin.org

## 2/9 みんなつながれ! 杜の子まつり

親子で楽しむ遊びのブースやおもちゃをポイントと交換できる「かえっこパズール」、人形劇、舞台劇、防災エンシヨールなど、楽しみいっぱいのイベントです。23日には、杜の子まつりの総括としてフォーラムディスカッションを実施します。

### 【杜の子まつり】

- 日 時：2月9日(日)11:00～17:30
- 内 容：人形劇 11:00～12:00  
かえっこパズール(遊ぼう! 作ろう! おもちゃのかえっこ) 12:00～15:00  
防災エンシヨール 15:15～16:15  
舞台劇 16:30～17:30

### 【フォーラムディスカッション】

- 日 時：2月23日(日)13:30～16:30(開場13:00～)
- 内 容：「子どもの未来・復興への展望2014」  
杜の子まつり3年間の報告&ワークショップ

### 【共通事項】

- 場 所：エル・パーク仙台  
(仙台三越定禅寺通り館 5・6階)
- 主 催：NPO法人せんだい杜の子ども劇場
- 連 絡 先：(担当：吉澤)  
〒981-3133 仙台市泉区泉中央4-17-1  
TEL/FAX：022-375-3548  
http://www.ab.auone-net.jp/~senmori8

| NPO法人に認証された団体  |         |                                                                                                                                                           |       |
|----------------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 団体名            | 所在地     | 活動内容                                                                                                                                                      | 認証日   |
| 宮城県 南三陸町復興協会   | 本吉郡南三陸町 | 地域の高齢者・障害者等への生活支援に関する活動等                                                                                                                                  | 11/11 |
| 宮城県 気仙沼銀河学校    | 気仙沼市    | 主に東日本大震災の被災地において、光害に関する普及啓発事業等を行い、良好な光環境を構築する活動                                                                                                           | 11/25 |
| 宮城県 セミナ〜レ      | 気仙沼市    | 障害児者及びその家族に対する福祉サービスに関する活動                                                                                                                                | 12/6  |
| 仙台市 あおぞら       | 仙台市     | 各種スポーツ等の普及振興事業、各種スポーツ等の振興を促進するための人材育成事業、各種スポーツ等に関する相談・支援・協力事業等                                                                                            | 11/15 |
| 仙台市 慶友舎        | 仙台市     | 不登校児・生徒、高校中退生とその家族に対する、相談、カウンセリングと学習を通じた支援事業、学習障害、注意欠陥多動性障害、基礎学力の不足により学校で苦戦している子どもたちやその家族に対しての支援事業、不登校や引きこもり等により進路を定められない青少年への職業指導と訓練、資格取得、職業相談による就労支援事業等 | 11/27 |
| 仙台市 LASELVAROI | 仙台市     | サッカーの指導・育成事業、スポーツ大会・イベントの運営事業                                                                                                                             | 11/27 |
| 仙台市 秘密基地プロジェクト | 仙台市     | 介護保険法による居宅介護支援事業、介護保険法による通所介護事業及び介護予防通所介護事業、福祉・介護に関する調査及び相談に関する事業等                                                                                        | 11/27 |



- 主 催：一般社団法人メディアデザイン
- 連 絡 先：(担当：千葉) 〒980-0801 仙台市青葉区木町通1-1-11  
TEL(携帯)：090-3049-0613  
FAX：022-224-5308  
E-mail：kouza@mediadesign.jp  
URL：http://mediadesign.jp/

## 1/22 MIA日本語サポータービギナー研修会

日本語を学習したい外国人にマンツーマンで日本語を教えるボランティア活動について、基礎から学ぶ研修会です。日本語サポート活動を始めてみたい方、登録はしてみたけれど実際どうしていいかわからないというビギナーの方々にお勧めです。

- 日 時：1月22日(水) 13:00～16:00
- 場 所：宮城県国際化協会交流ラウンジ  
(仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎7階)
- 講 師：鈴木英子氏(MIA日本語講座スーパーバイザー)
- 内 容：・地域の国際化と日本語ボランティア活動について  
・外国語としての日本語、やさしい日本語について  
・日本語学習教材の紹介など
- 定 員：30名(先着順)
- 参 加 費：無料
- 申込方法：下記連絡先にTEL・E-mailで申込。  
※参加はMIA日本語サポーター登録者に限りま  
す。未登録の方は事前にMIA日本語サポーター  
への登録をお願いします。登録については下  
記連絡先にお問い合わせ下さい。
- 主 催：公益財団法人宮城県国際化協会(MIA)
- 連 絡 先：〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
宮城県仙台合同庁舎7階  
TEL：022-275-3796 FAX：022-272-5063  
E-mail：mail@mia-miyagi.jp  
URL：http://mia-miyagi.jp/

## 1/25 メディアデザイン講座 デザイン+ワード講座

デザインの基礎を学びながら、チラシをワードで実際に制作します。「目からウロコが落ちる」を実感できる講座です。

- 日 時：1月25日(土) 10:00～13:00
- 会 場：みやぎNPOプラザ 第1会議室(仙台市宮城野区榴ヶ岡5)
- 講 師：真山正太氏(グラフィックデザイナー)  
千葉浩二氏(パソコンテクニクアドバイザー)
- 定 員：10名(事前申込・先着順)
- 参 加 費：2,000円(当日会場にてお支払いください)
- 持 ち 物：各自のPCをご持参ください。  
持参できない方には、200円でPCをお貸しいたしま

## 1/26 傾聴講座 基本講座 全3回

傾聴とは、相手のところに寄り添い、じっくり聴くこと。コミュニケーションに大切な聴き方の姿勢であり、心構えです。基本を学び、ご自身の生活に活かしてみませんか？

- 日 時：すべて日曜日10:00～13:00(開場9:30)  
(1)1月26日、(2)2月2日、(3)2月16日
- 場 所：NPOこころの休憩所 Sawa's Cafe  
(仙台市青葉区上杉2-4-21 リバーシティ上杉101)
- 講 師：大山佳世氏(心理カウンセラー)
- 参 加 費：各回3,000円(税込)  
【全回割引特典】全3回8,000円(税込)初回時に  
納入で割引有 ※飲み物代別  
当NPO会員は飲み物代300円をサービス  
欠席の回は、2014年定期開催の同講座で、年  
内振替受講可
- 申込方法：住所、氏名、連絡先電話、メールアドレスを明  
記の上、下記連絡先まで申込
- 主 催：NPOこころの休憩所
- 連 絡 先：Sawa's Cafe  
〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-4-21  
TEL/FAX：022-797-5114  
E-mail：sawas\_cafe@love.plala.or.jp  
URL：http://www13.plala.or.jp/sawas\_cafe/

## 2/1 東日本大震災 父子家庭+父親支援プロジェクト 宮城のお父さんフォーラム

宮城県の父親支援の現状を共有し、被災3県のお父さんの声に学びながら、父親支援の必要性和ネットワークづくりについて考えます。

- 日 時：2月1日(土) 13:30～17:00
- 場 所：エル・パーク仙台 ギャラリーホール  
(仙台市青葉区一番町4-11-1 141ビル  
(仙台三越定禅寺通り館)6階)

## かほく「108」クラブ通信 河北新報仙台東販売センター

当社は仙台市宮城野区高砂に本部があり、高砂店、多賀城中央店(留ヶ谷)、多賀城東部店(桜木町)の3店舗があります。今年創立23周年を迎えます。

東日本大震災では蒲生、岡田、仙台南港などを控えた高砂店、多賀城東部店エリアで大きな津波被害が出ました。震災直後は新聞配達

も困難を極めました。

震災から満3年を迎えようとしています。沿岸部はまだ復興途上ですが、被災された方々が避難先から、ぽつぽつと戻り始めています。店に時々、新聞購読申し込みの電話がかかってくる。そんな時「あー、〇〇さんが戻って来たんだね」と社員同士喜んでいきます。



▲高砂の本部近くまで津波がきました

- 募金活動：1)設置されている支援箱を使用  
2)直接関係者に手渡す  
3)郵便局口座振込みで送金  
口座記号 2230-6 口座番号109864  
加入者名 世界食料・フィリピン支援グループ  
フィリピン台風災害支援金
- 主 催：フィリピン災害支援ダマヤン実行委員会・みやぎ  
●協 力：在日フィリピン大使館・公益財団法人仙台国際交流協会  
●連絡先：TEL/FAX：022-377-1863  
携帯電話：090-9638-0080  
E-mail: yoshikoexl@gmail.com  
URL：http://miyagi-nponavi.jp/sendai/dantai.cgi?id=2837

## イベント

### 1/12 My Will Video 作成講座 「後から生まれた君たちへ」

あなたの思い出・宝物として残っている手持ちの写真、動画を使ってあなたの家族、友人、周りにいる人に向けて記憶に残る物語ビデオを作成します。「映像カフェさんだい」スタッフが一緒に取り組むので、初心者でも参加OK！

- 日 時：1月12日(日)14:00～16:00  
●場 所：仙台市中央市民センター第2音楽室  
(仙台市宮城野区榴岡4-1-8)  
●参加費：無料  
●主 催：映像カフェさんだい  
●申込方法：下記連絡先まで、氏名、連絡先を明記し、FAX、またはメールで事前申込。  
●連絡先：担当：関本  
FAX：022-274-6248  
E-mail：s-eitaro@jcom.home.ne.jp

### 1/14 エクセルで「家族の予定表」を学ぼう

エクセルの特徴を学び、実際にエクセルで予定表を作ってみましょう。

- 日 時：1月14日(火)10:00～12:00  
1月17日(金)19:00～21:00  
●場 所：迫にぎわいセンター(登米市迫町佐沼西佐沼70)  
●参加費：2,000円  
●申込方法：下記連絡先に、受講日前日までにご予約下さい。  
●主 催：NPO法人パソコン・ネット・みやぎ  
●連絡先：〒987-0511 登米市迫町佐沼西佐沼70  
迫町にぎわいセンター内  
TEL：0220-21-5262

### 1/15 みちのく歴訪会

東北アウトドア情報センターは、みやぎ周辺の古道、史跡を歩き、研究する会を発足させました。懇談会(座学)と現地訪問を月1～2回実施して行きます。会員登録制(無料)で会員には随時、ご案内致します。

#### 【懇談会(説明会も兼ねて開催)】

- 日 時：1月15日(水)、2月5日(水)  
昼の部13:00～14:00、夕の部17:00～18:00  
●場 所：みやぎNPOプラザ第2会議室(仙台市宮城野区榴ヶ岡5)  
●参加費：500円(要申込)

#### 【現地訪問】

- 日 時：1月19日(日)、1月22日(水)、2月13日(木)、2月16日(日)  
9:00仙台駅前集合、16:00頃解散。  
※平日、休日の2回、継続して開催します  
●場 所：当面は松尾芭蕉らが辿った「おくの細道」や歌枕の地を訪問します  
※仙台戻りは交通事情などで遅れることがあります  
●参加費：4,000円程度(講師料、資料代、交通費、保険代含)  
●携行品：野外服装と歩きやすい靴。昼食、飲料など。防寒雨具類。  
●申込締切：実施日の3日前17:00  
当日キャンセルは保険、資料の関係で500円とします。

#### 【共通事項】

- 主 催：東北アウトドア情報センター内「みちのく歴訪会」  
●連絡先：TEL：090-8616-1397 FAX：022-774-1858  
E-mail：toimail@nifty.com  
URL：http://www8.ocn.ne.jp/~toi/

### 1/18 岩沼市みみサポサロン特別企画 みみサポ「おしゃべりサロン」(手話通訳・要約筆記付き)

NHK Eテレでおなじみ、手話ニュースのキャスターがみみサポサロンに登場します!!手話の魅力満載の絶品パフォーマンスをお楽しみください。会場でお待ちしています!

- 日 時：1月18日(土) 10:30～14:30  
●場 所：岩沼市民会館 中ホール(岩沼市里の杜1-2-4)  
●ゲ ス ト：田中清氏(手話ニュース土曜担当、手話ニュース845 火曜担当)  
野口岳史氏(手話ニュース845 月曜担当)  
●内 容：ミニ講演、クイズなど(10:30～12:00)  
ミニ手話劇(13:00～14:30)  
※昼食はご持参ください  
※お弁当や軽食の販売もあります  
●申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。  
●主 催：みやぎ被災聴覚障害者情報支援センター(みみサポみやぎ)  
●連絡先：〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町1-1-1  
萩野町Mビル3階  
TEL：022-349-9605 FAX:022-349-9606

## ありがとうございます!!

今月の新入会員・継続会員 (2013.12.16現在)敬称略

#### ●正会員 50名

★仙台市 ●佐藤和文

#### ●賛助会員 82名

★石巻市 ●NPO法人石巻スポーツ振興サポートセンター  
★仙台市 ●須藤達也 ●高橋輝  
●みやぎ生協生活文化部

## 会 員 募 集

杜の伝言板ゆるるは、地域の課題を解決するために活動するNPOの継続的運営や、それに参加するボランティアの育成を支援している団体です。特に1997年に創刊した月刊杜の伝言板ゆるるは市民活動やボランティアをしたい市民、それを応援したい企業、行政、そしてNPOをつなぐ情報誌として広く活用されています。これからもNPOや参加する市民にとって役立つ情報を発信し、地域の生活環境が向上するように活動していきますので、ぜひ、私たちの会員となって応援してください!!

■会員には毎月「月刊杜の伝言板ゆるる」が届きます。  
※正会員以外は、総会での議決権がありません。

#### 郵便振替口座

口座番号 02250-0-43800

加入者名 特定非営利活動法人 杜の伝言板ゆるる  
(会員申込の方は、通信欄に会員の種類をご記入ください。)

| 会員種類      | 年会費     |
|-----------|---------|
| 正会員個人・NPO | 10,000円 |
| 正会員法人     | 20,000円 |
| 賛助会員個人    | 3,000円  |
| 賛助会員NPO   | 5,000円  |
| 賛助会員企業・団体 | 20,000円 |



# information

12月15日までにゆるる編集部に届いた情報です。  
詳細は各情報の連絡先にお問い合わせください。

## ボランティア情報

### 事務処理ボランティアスタッフ募集

シニア世代を対象にワークショップやコミュニティカフェを実施している団体です。事務局の活動を支援しているのは、会計や書記といった事務です。今回は、その事務局の要となる事務処理ボランティアを募集します！

- 活動日時：パソコンをお持ちの方で、在宅にて事務処理(会計・書記)をして頂ける方。月1回程度東北ネットワーク事務局にこられる方
- 活動場所：基本的に在宅  
月1回程度 東北ネットワーク事務局  
(仙台市若林区新寺1-5-26レインボー仙台407)
- 内 容：会計・書記などの事務処理  
その他要望があれば、お聞きます。
- 募集人員：2名
- 活動内容：在宅の場合は、事務所活動費に関する帳簿作成及び会議議事録作成  
事務所内では、ファイリング整理
- 申込方法：電話・メールにてご連絡ください
- 募集主体：公益社団法人WAC長寿社会文化協会東北ネットワーク事務局
- 連絡先：〒984-0051 仙台市若林区新寺1-5-26  
レインボー仙台407  
TEL：090-9245-1573  
E-mail：lovethelight@sage.ocn.ne.jp  
URL：http://www.wac.or.jp/

## 有給スタッフ

### 認定NPO法人地球のステージ 職員募集

名取市で甚大な震災被害があった閑上地区の被災された方々の心のケアをはじめとした支援活動をおこなっています。被災地閑上地区で運営しているプレハブ「閑上の記憶」(慰霊碑の社務所、資料館、集会所などの役割)の事務局運営サポートを担っていただける職員を募集します。

- 勤務内容：「閑上の記憶」事務局運営

被災地閑上地区で運営している「閑上の記憶」運営サポート  
閑上案内ガイドや語り部の会の運営・調整業務  
学芸員活動のサポート

- 勤務地：宮城県名取市
- 勤務時間：原則として月～金 10:00～18:00(休憩60分)
- 勤務期間：2014年1月～2015年1月(プロジェクト内容により延長有)
- 休日：原則土・日・祝、年末年始、夏期休暇(休日出勤していただく場合も有)
- 待遇：当団体規定により、年齢・経験等を考慮の上定める。社会保険、雇用保険、労務保険に加入
- 募集人員：1名
- 応募資格：(1)本支援活動の趣旨に賛同された方  
(2)パソコン(Word、Excel、Power Point)を使用しての業務遂行(報告書作成、フェイスブック管理含む)が可能なおこと  
(3)心身ともに健康であり、協調性を有する方、人との関わりが好きな方  
(4)普通自動車免許を有する方  
※宮城県出身者、または現在宮城県に在住する方、優遇
- 応募期間：随時選考。適任者が見つかり次第、締切。書類選考後、面接日程をお知らせします。
- 応募方法：履歴書(写真添付)・職務経歴書(書式自由)・志望動機(A4・1枚程度)を下記連絡先、林までEメールまたは郵送で申込。応募書類は返却できませんのでご了承ください。
- 連絡先：認定NPO法人地球のステージ(担当：林)  
〒981-1217名取市美田園7-17-3 2階  
TEL：022-738-9221 FAX：022-383-8330  
E-mail：yoshimih111@gmail.com  
URL：http://www.e-stageone.org/

## お知らせ

### フィリピン台風災害募金

助けてください! 私たち「ダマヤン(フィリピン女性の会)」の家族や同僚が今回の台風被害で苦しんでいます。なんとか助けたいと思っています。皆様の温かいお心をいただけましたら幸いです。

- 支援活動：宮城県に住むフィリピン人の被害家族と、その地域の人々のために、支援していく計画です。

## 情報をお待ちしています

- 申込方法：問合せ先を明記の上(初めてご利用いただく団体は団体概要も添付)、FAX、e-mail、郵送にてお寄せ下さい。掲載は無料です!
- 締切：毎月15日(翌月10日以降開催・締切となる情報を掲載します)
- 誌面の都合で掲載できない場合があります。○お問合せは事務局まで。  
※申込みいただいた情報は「みやぎNPO情報ネット」にも提供いたします。

NPO法人杜の伝言板ゆるる

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-11-6 コーポラス島田B6  
TEL:022-791-9323 FAX:022-791-9327  
e-mail:npo@yururu.com

みやぎのNPO・市民活動を支援するWebサイト  
「みやぎNPO情報ネット」

<http://www.miyagi-npo.gr.jp>



NPO法人杜の伝言板ゆるるが宮城県と協働で運用する、みやぎのNPO・市民活動を支援するWebサイトです。ボランティアやスタッフの募集、講座・イベントのお知らせ、助成金・行政情報など、市民活動・NPOに役立つ情報が満載です。  
問い合わせは、[info@miyagi-npo.gr.jp](mailto:info@miyagi-npo.gr.jp) まで

みやぎのボランティア・市民活動情報誌『月刊杜の伝言板ゆるる』は、  
今月号で創刊200号となりました！  
これを節目に、市民メディアとしての『伝える』『伝えたい』を市民のみ  
なさんとともに探る機会を設けます。

基調講演

14:00～15:00

「わたしが震災まんがを描いたわけ」

講師

井上きみどりさん

ノンフィクション漫画家・コラムニスト



参加費  
無料

パネルトーク

15:10～17:00

「市民メディアとしてのこだわり」

パネリスト



佐藤 和文さん

河北新報社デジタル戦略  
委員会シニアアドバイザー



高橋 厚さん

山元町臨時災害FM放送局  
「りんごラジオ」代表



荒川 陽子さん

地域生活支援  
オレンジねっと代表

コーディネーター



大久保 朝江

特定非営利活動法人  
杜の伝言板ゆるる  
代表理事

◆日時  
平成26年2月1日(土)  
14:00～17:00

◆対象  
どなたでも

◆会場  
みやぎNPOプラザ交流サロン

◆定員  
80名(要申込、先着順)

交流会

どなたでも  
参加できます！

◆時間  
17:15～18:45

◆参加費  
1,500円

◆定員  
40名(先着順、要申込)

主催 特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる

共催 宮城県(みやぎNPOプラザ)

後援 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会、河北新報社

お申込みは  
コチラのURLから

<http://p.tl/TZ3X>

